日立ダイアグモニタ
HDM-3000

PCデータセーバー
Version 2

取扱説明書

ご利用の前に

・この取扱説明書をよくお読みになり正しくご使用ください。
・この取扱説明書は、製品と一緒に大切に保管してください。

警告

(1)　HDM-3000本体から煙が出る、異臭がするなどの異常がある場合は、ただちに車両のイグニッションスイッチと診断器本体の電源をOFFにして、ダイアグケーブルを抜いてください。
　※　火災の原因となります。

注意

(1)　本アプリケーションはHDM-3000専用です。他メーカーの診断器には使用できません。
　※　診断器本体、アプリケーションソフトの故障の原因となります。
(2)　車を修理する場合は、カーメーカー発行の整備マニュアルに基づき修理を行なってください。
(3)　(株)日立オートパーツ&サービスで認定しているHDM-3000用アプリケーションソフト以外のソフトやデータ類を、付属のCFカードにインストールしないでください。
　※診断機本体の誤作動や故障の原因となります。
(4)　診断器本体にCFカードを取り付ける時や取り外す時は、実行中のアプリケーションソフトを停止させ、電源をOFFにしてください。
　※　アプリケーションソフト実行中や電源ONの状態でCFカードの取り付けや取り外しをすると、HDM-3000本体やCFカード内のプログラムやデータを破壊する恐れがあります。
(5)　CFカードを抜いた状態でHDM-3000を長時間、放置しないでください。
　※　CFスロット(挿入口)を開放したままにすると、本体内部にホコリや水滴が入り、故障となる原因を誘引します。
(6)　CFカードを水に濡らしたり、曲げたり、落としたり、衝撃を与えないでください。
　※　故障の原因となります。
(7)　CFカードを挿入する時は、診断器に向きを合わせ挿入してください。
　※　向きを間違えると故障の原因となります。
(8)　CFカードを分解、改造しないでください。
　※　故障の原因となります。
(9)　CFカードのコネクタ部分または内部に異物を入れないでください。
　※　故障の原因となります。
(10)　CFカードを直射日光のあたる場所、温度の高い場所、湿度の高い場所、ほこりの多い場所に放置しないでください。
　※　故障の原因となります。
(11)　CFカードのコネクタ端子に指で直接触れないでください。
　※　故障または接触不良の原因となります。
(12)　ケーブルの抜き差しは、コネクタハウジングをつかんで行ってください。
　※　ケーブルを直接引っ張ると断線の原因となります。

目　次

はじめに

■ PCデータセーバーの主な機能

PCデータセーバーは以下のようなことができます。

①データリスト/故障コード/フリーズフレーム解析データの表示機能
HDM-3000から転送された解析用データをパソコン上で数値やグラフ表示する機能です。

②データリスト解析データの比較機能
複数のデータリスト解析データをパソコン上でグラフ表示、数値表示により比較する機能です。

③保存データのバックアップ機能
HDM-3000のCFカードに保存された保存データをパソコンのハードディスクにバックアップする機能です。

④保存データのリストア機能
保存データのバックアップ機能でバックアップされた保存データをHDM-3000のCFカードに戻す機能です。

⑤画面保存データのバックアップ機能
HDM-3000のCFカードに保存された画面保存データをパソコンのハードディスクにバックアップする機能です。

⑥画面保存データのリストア機能
画面保存データのバックアップ機能でバックアップされた画面保存データをHDM-3000のCFカードに戻す機能です。

⑦画面保存データの表示機能
HDM-3000で保存された画面保存データ(ハードコピーデータ)をパソコン上で表示する機能です。

⑧診断カルテ作成機能
テンプレートとなるMicrosoft ExcelファイルやMicrosoft Wordファイルを登録し、診断カルテをスムーズに作成できるようにする機能です。
※ 診断カルテ機能を利用するにはMicrosoft ExcelまたはMicrosoft Wordがご使用のパソコンにインストールされている必要があります。

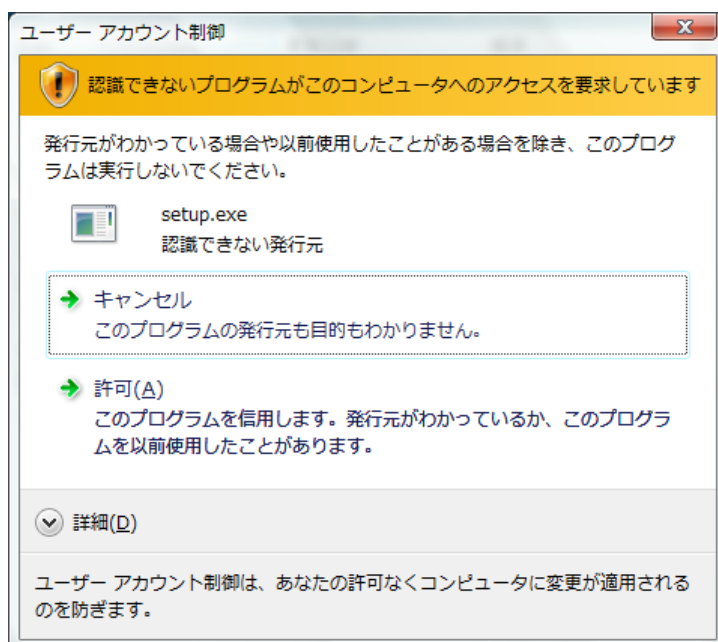
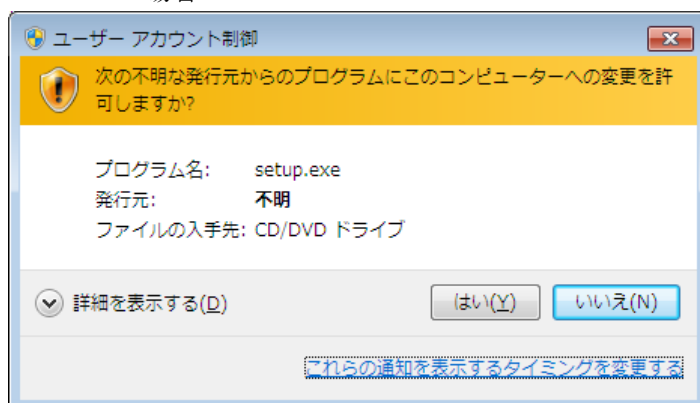
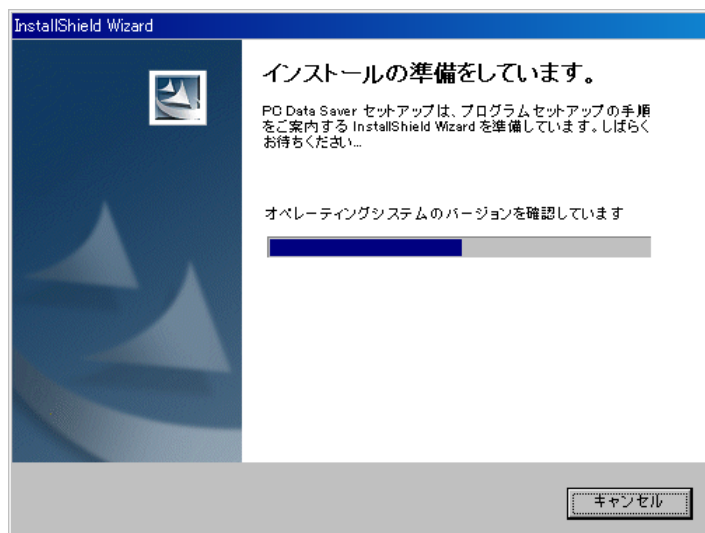
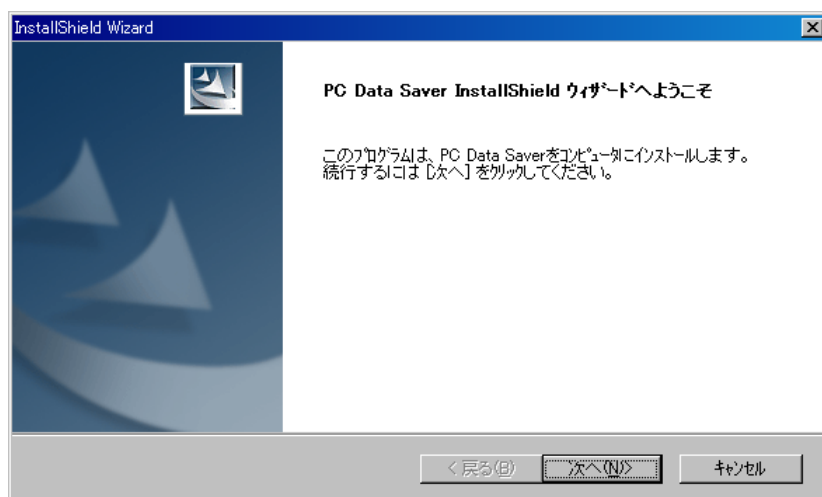
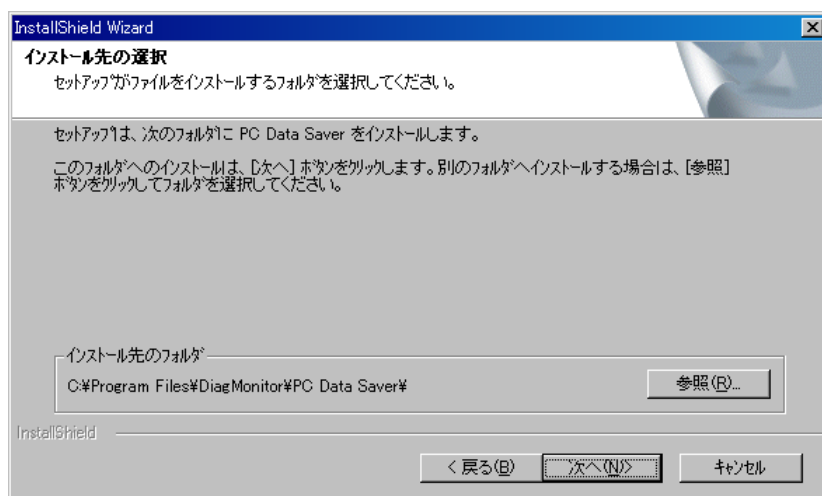
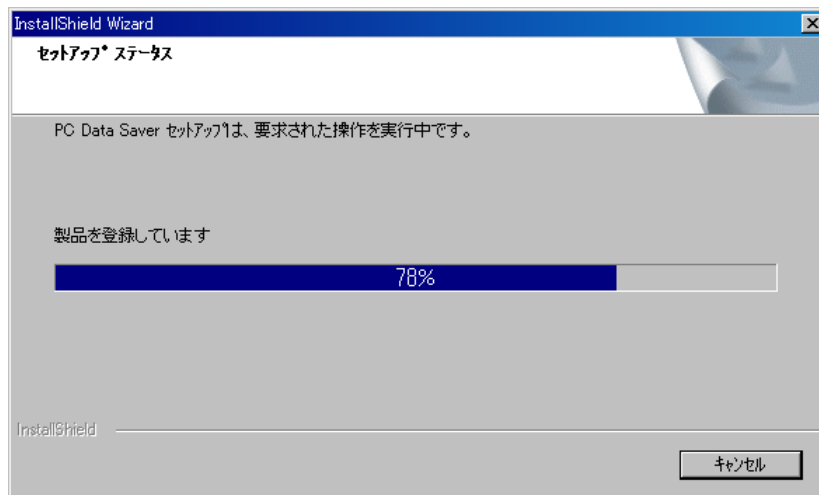
■ 動作環境

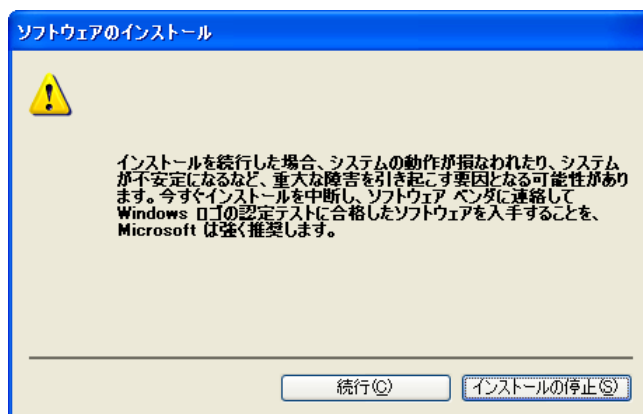
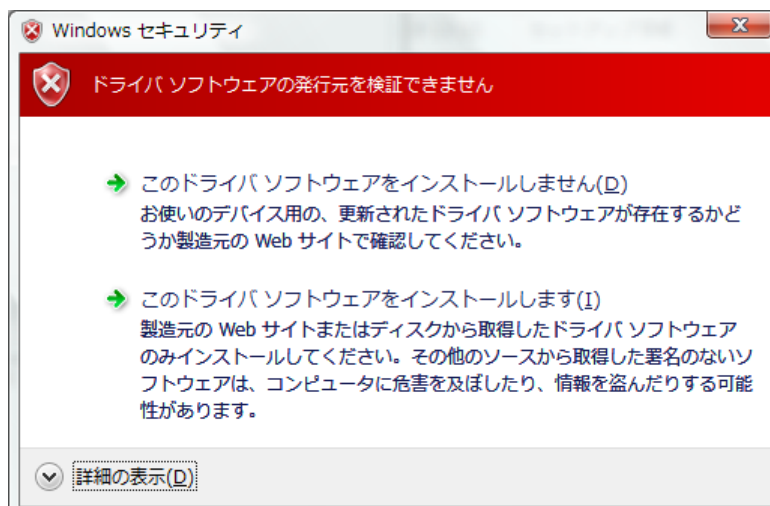
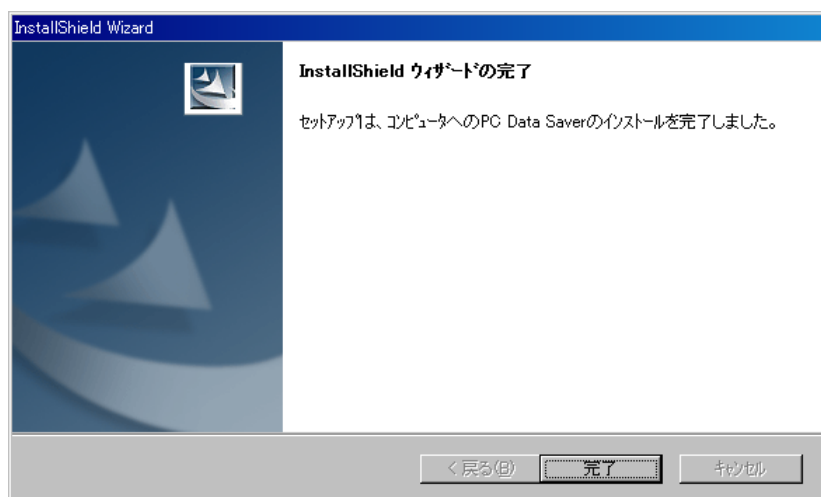
対応機種	:	USB1.1またはUSB2.0インタフェースを持つDOS/Vパソコン			
対応OS	:	Windows 7 32bit版/64bit版、Windows Vista 32bit版/64bit版、Windows XP 32bit版、Windows 2000			
対応HDM-3000アプリケーション	:	日産車用	Ver.2.5以降	トヨタ車用	Ver.2.5以降
		ホンダ車用	Ver.1.5以降	マツダ車用	Ver.2.0以降
		スズキ車用	Ver.2.0以降	ダイハツ車用	Ver.2.0以降
		スバル車用	Ver.2.0以降	三菱車用	Ver.1.5以降
		いすゞ車用	Ver.1.1以降	三菱ふそう車用	Ver.1.1以降
		日野車用	Ver.1.1以降	グローバルOBD2	Ver.1.3以降
		排気ガス測定用	Ver.1.0以降	計測機能用	Ver.1.1以降

PCデータセーバーのインストール

下記の手順に従ってPCデータセーバーをご使用のパソコンにインストールしてください。

① パソコンを起動してください。
　※ 特定の管理者を設けて、社内のパソコンへソフトのインストールを制限している場合は、パソコンの電源立上げ時に管理者名と管理者のパスワードでログオンしてください。
　※ インストールを実行する前に、ウィルススキャンソフト等の常駐プログラム、起動中のアプリケーションをすべて終了してください。
② PCデータセーバーインストールディスクをCD-ROMドライブにセットしてください。
　自動的にセットアッププログラムが起動します。
　※ 自動で起動しない場合は、<CD-ROMドライブ名>:¥Setup.exe を実行してください。
③ Windows VistaまたはWindows 7の場合、下記の画面が表示される場合があります。
　「許可」または「はい」をクリックし実行を許可します。

〈Windows Vistaの場合〉

〈Windows 7の場合〉

③ インストールの準備画面が表示されます。

④ インストールの準備が完了すると下記の画面が表示されます。
「次へ」をクリックします。

⑤ インストールするフォルダを選択する画面が表示されます。
インストール先を変更する場合は「参照」をクリックし新しいインストールフォルダを指定してください。
内容を確認し「次へ」をクリックします。

⑥ PCデータセーバーのインストールが実行されます。

⑦ Windows XP、Windows VistaまたはWindows 7の場合、下記のWindowsロゴの警告画面が表示されます。
Windows XPの場合「続行」、Windows VistaまたはWindows 7の場合「このドライバ ソフトウェアをインストールします」をクリックしてください。

〈Windows XPの場合〉

〈Windows VistaまたはWindows 7の場合〉

⑧ インストールが完了すると下記の画面が表示されます。
「完了」クリックしインストールを終了します。

⑨ [スタート]→[プログラム]→[PC Data Saver]フォルダにある[PC Data Saver]のショートカットをクリックするとプログラムを起動できます。

■ USBドライバの手動インストール

USBドライバのインストールはPCデータセーバーのインストール時に自動的に行われます。
PCデータセーバーのインストール時にUSBドライバのインストールに失敗した場合、以下の手順にて手動インストールを行うことができます。

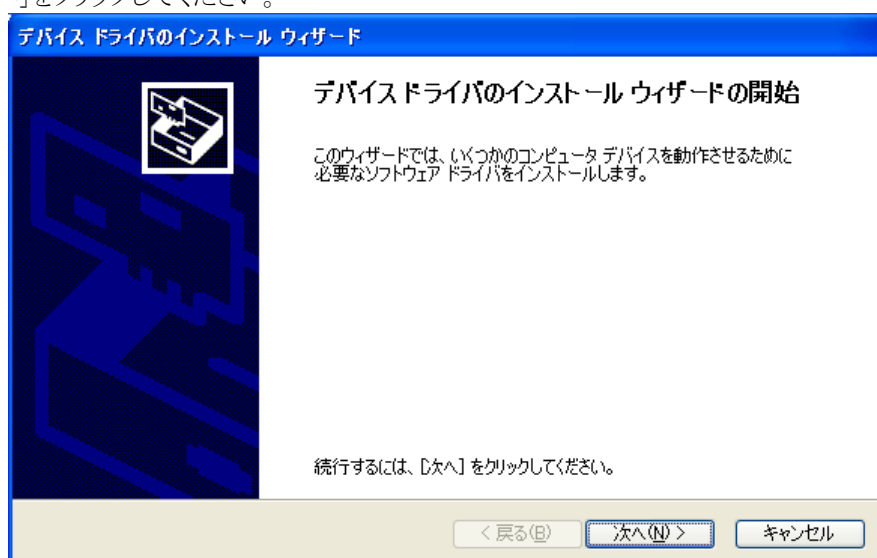
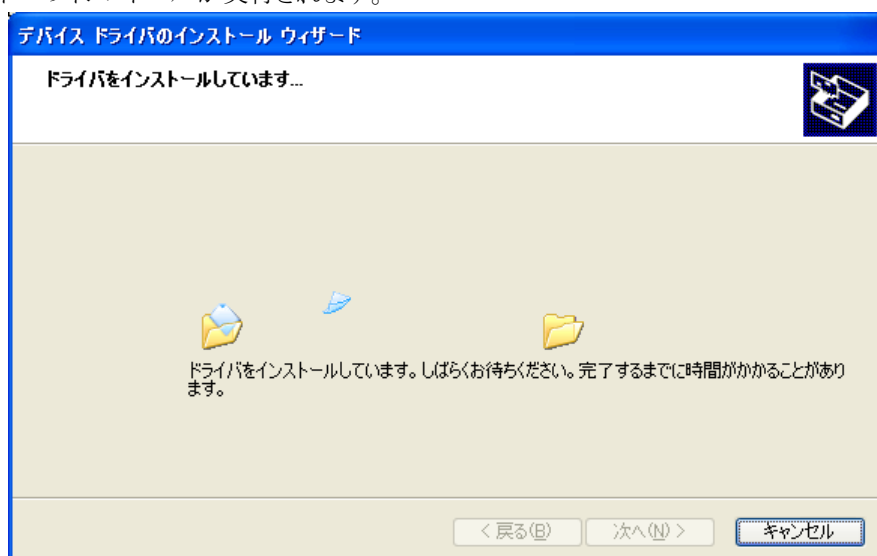
① パソコンを起動してください。

※ 特定の管理者を設けて、社内のパソコンへソフトのインストールを制限している場合は、パソコンの電源立上げ時に管理者名と管理者のパスワードでログオンしてください。

※ インストールを実行する前に、ウィルススキャンソフト等の常駐プログラム、起動中のアプリケーションをすべて終了してください。

② <インストールディレクトリ>¥Driver¥DPInst.exe を実行します。

※ <インストールディレクトリ> PCデータセーバーをインストールしたディレクトリ。
標準で"C:¥Program Files¥DiagMonitor¥PC Data Saver"です。

③ デバイスドライバのインストールウィザードが起動し、下記の画面が表示されます。
「次へ」をクリックしてください。

④ ドライバのインストールが実行されます。

⑤ Windows XP、Windows VistaまたはWindows 7の場合、下記のWindowsロゴの警告画面が表示されます。
Windows XPの場合「続行」、Windows Vistaの場合「このドライバ ソフトウェアをインストールします」をクリックしてください。

<Windows XPの場合>

<Windows VistaまたはWindows 7の場合>

⑥ インストールが完了すると下記の画面が表示されます。
「完了」クリックしインストールを終了します。

■ USBポートのセットアップ(HDM-3000の初回接続時)

USBポートへの初回接続時、USBポートに対するデバイスドライバのインストールが行われます。
Windowsのバージョンによって手順が異なりますので、ご使用のWindowsについての手順を参照してください。

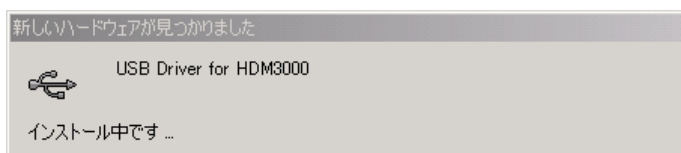
• Windows 2000の場合

① パソコンを起動してください。

※ 特定の管理者を設けて、社内のパソコンへソフトのインストールを制限している場合は、パソコンの電源立上げ時に管理者名と管理者のパスワードでログオンしてください。

※ インストールを実行する前に、ウィルススキャンソフト等の常駐プログラム、起動中のアプリケーションをすべて終了してください。

② HDM-3000に本体キット付属のACアダプタを接続し、電源をONにした状態で、付属のUSBケーブルを用いてご使用のパソコンとHDM-3000を接続してください。

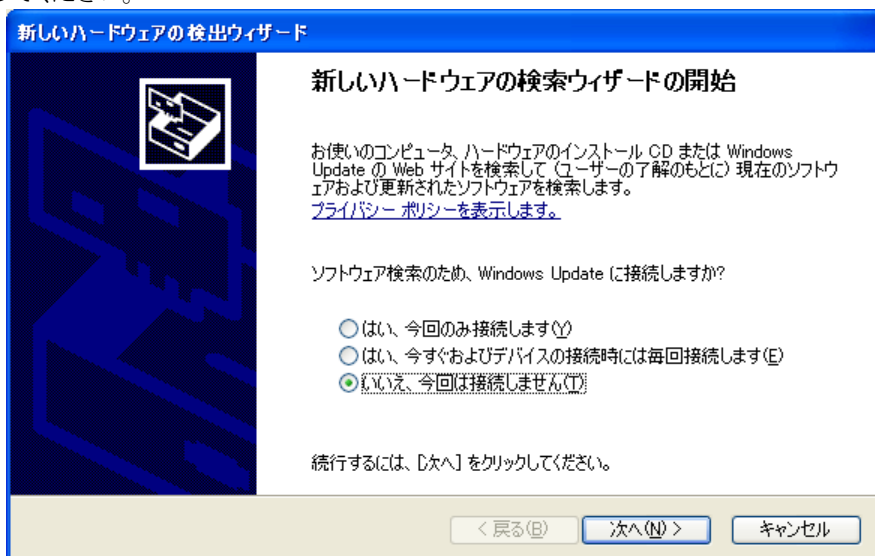
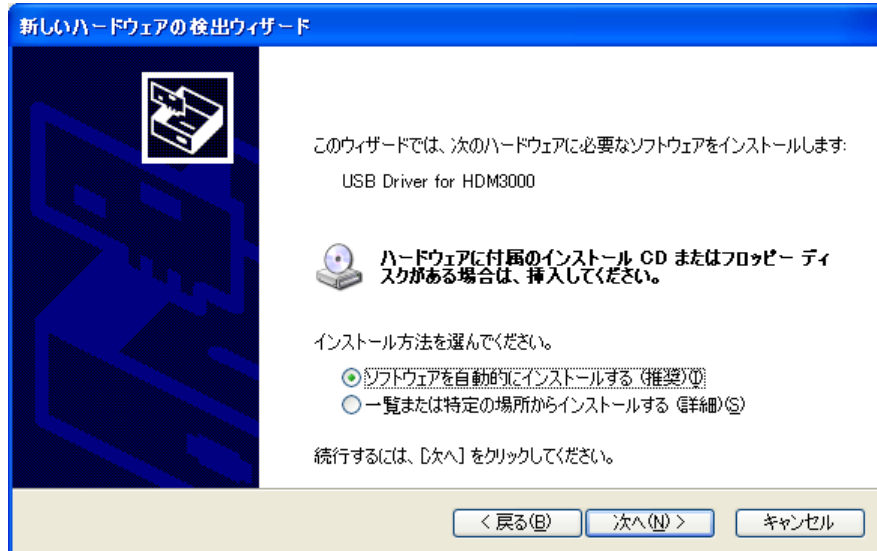
③ WindowsがUSBデバイスを検出し自動的にドライバのインストールが行われます。
インストール中は下記の画面が表示されます。

• Windows XPの場合

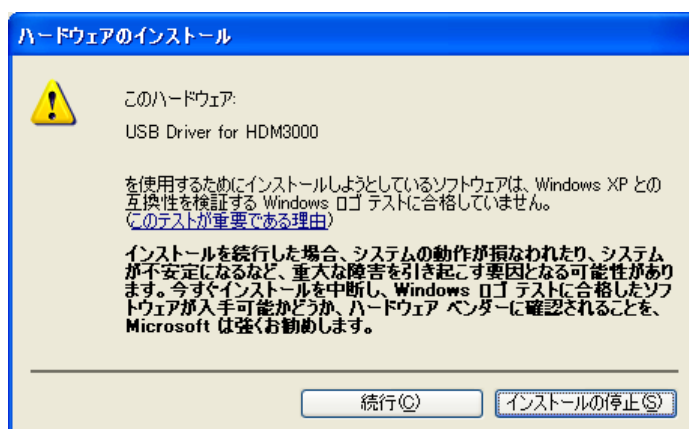
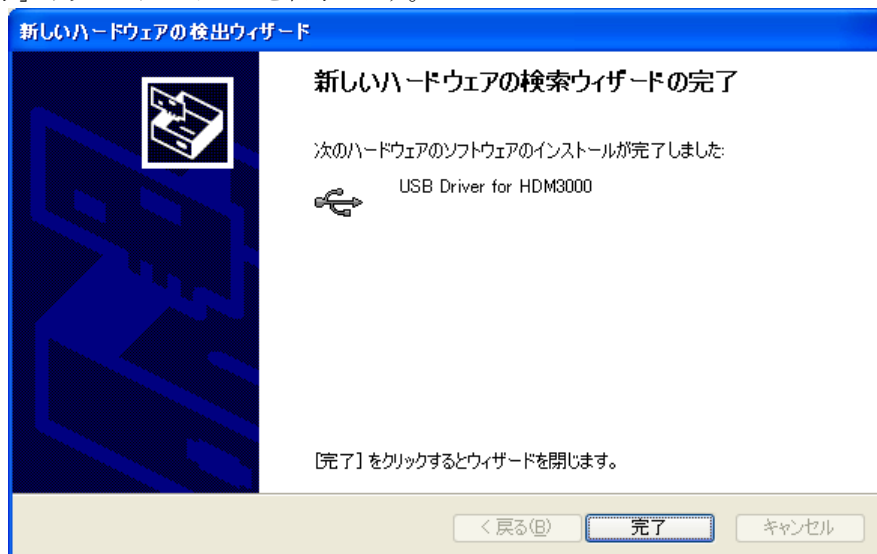
① パソコンを起動してください。

※ 特定の管理者を設けて、社内のパソコンへソフトのインストールを制限している場合は、パソコンの電源立上げ時に管理者名と管理者のパスワードでログオンしてください。

※ インストールを実行する前に、ウィルススキャンソフト等の常駐プログラム、起動中のアプリケーションをすべて終了してください。

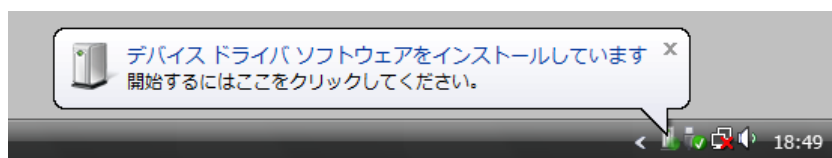
② HDM-3000に本体キット付属のACアダプタを接続し、電源をONにした状態で、付属のUSBケーブルを用いてご使用のパソコンとHDM-3000を接続してください。

③ WindowsがUSBデバイスを検出し「新しいハードウェアの検出ウィザード」が起動します。
「Windows Update」接続確認画面が表示された場合は、「いいえ、今回は接続しません」を選択し「次へ」をクリックしてください。

④ インストール方法の指定で「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択し「次へ」をクリックしてください。

⑤ ドライバのインストールが開始されます。

⑥ Windowsロゴテスト確認の画面が表示されます。
「続行」をクリックしてください。

⑦ インストールが完了すると下記の画面が表示されます。
「完了」クリックしインストールを終了します。

• Windows Vista/Windows 7の場合

① パソコンを起動してください。
※ 特定の管理者を設けて、社内のパソコンへソフトのインストールを制限している場合は、パソコンの電源立上げ時に管理者名と管理者のパスワードでログオンしてください。
※ インストールを実行する前に、ウィルススキャンソフト等の常駐プログラム、起動中のアプリケーションをすべて終了してください。

② HDM-3000に本体キット付属のACアダプタを接続し、電源をONにした状態で、付属のUSBケーブルを用いてご使用のパソコンとHDM-3000を接続してください。

③ WindowsがUSBデバイスを検出し自動的にドライバのインストールが行われます。
インストール開始時に下記の画面が表示されます。

④ インストールが完了すると下記の画面が表示されます。
※ Windowsの環境により再起動を要求されることがあります。その場合、デバイスは再起動後に使用可能となります。

解析データの表示機能を使用する

■ 解析データの転送とオープンの方法

1. HDM-3000診断アプリケーションの「現在のデータ表示/保存」機能を使用して車両データを保存する。
2. HDM-3000とパソコンをUSBケーブルで接続する。
3. パソコンでPCデータセーバーを起動する。
4. HDM-3000診断アプリケーションの「保存データを再表示する」を実行する。
5. 保存データの一覧で「F1　データ解析」を実行する。

データモニタ項目

No	システム	ファイル作成日時	区分
1	エンジン	2008/10/24 09:45:19	
2	エンジン	2008/10/17 09:38:25	
3	エンジン	2008/10/16 08:47:06	
4	エンジン	2008/10/16 08:45:04	
5	エンジン	2008/10/15 18:22:45	
6	エンジン	2008/10/15 18:20:07	
7	エンジン	2008/10/15 18:19:31	

6. データ解析対象選択画面で、選択したい項目にカーソルを移動しYESキーで実行する。

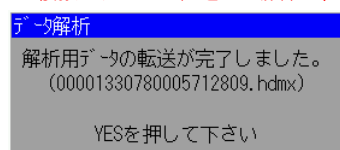
※ Sキーで選択されたデータがない場合は、選択項目に「選択されたデータ」は表示されません。

※ データ転送中に下記のようなことは行わないでください。データが破損する場合があります。
　・PCデータセーバーを終了する、・USBケーブルを抜く、・HDM-3000の電源をOFFする、・HDM-3000のCFカードを抜く

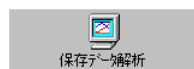
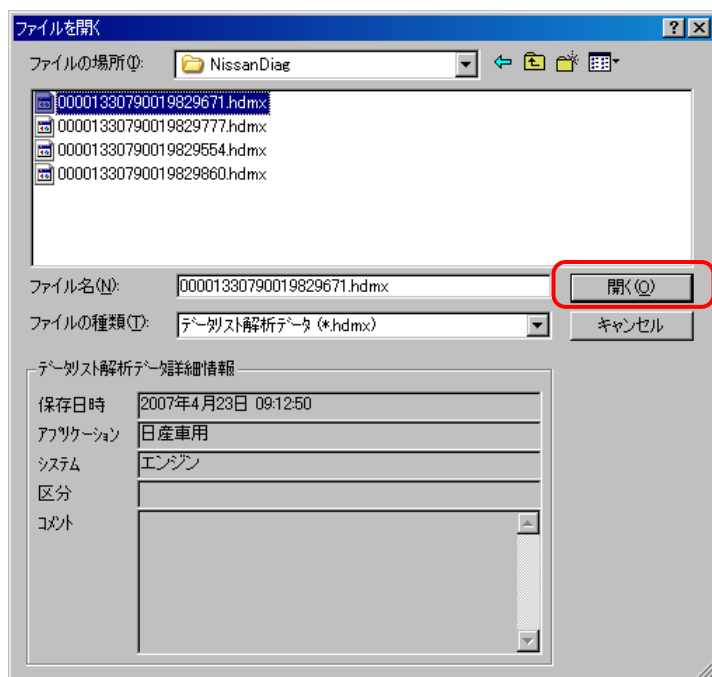
7.　選択されたデータが解析データに変換されパソコンに保存されます。
パソコンでの保存先は以下となります。
〈マイドキュメント〉¥DiagMonitor¥PC Data Saver¥BackupBox¥AnalyseXML¥〈シリアル番号〉¥〈アプリケーション名〉

※ 〈マイドキュメント〉　「マイ ドキュメント」フォルダ ／ 「ドキュメント」フォルダ(Vista/7の場合)
〈シリアル番号〉　接続したHDM-3000のシリアル番号で
HDM-3000の背面のステッカーに記載されています。
〈アプリケーション名〉　転送したHDM-3000診断アプリケーションにより異なります。

日産車用	NissanDiag	トヨタ車用	ToyotaDiag
ホンダ車用	HondaDiag	マツダ車用	MazdaDiag
スズキ車用	SuzukiDiag	ダイハツ車用	DaihatsuDiag
スバル車用	SubaruDiag	三菱車用	MitsubishiDiag
いすゞ車用	IsuzuDiag	三菱ふそう車用	MitsubishiFuso
日野車用	HinoDiag	グローバルOBD2	GlobalOBD
排気ガス測定用	GasMonitor	計測機能用	Measure

ファイル名は解析データ転送終了後にHDM-3000の画面に表示されます
※ 複数のデータを転送した場合は、ファイル名は表示されません。

パソコンでの保存ファイルの拡張子は以下となります。

解析データ種類	拡張子
データリスト解析データ	*.hdmx
故障コード解析データ	*.dtcx
フリーズフレーム解析データ	*.ffdx

8.　PCデータセーバーの左側にある「保存データ解析」を実行する。

9.　7.で保存された解析データを選択し、開くボタンをクリックする。

10.　保存データ解析画面が表示されます。

■ データリストの保存データ解析画面の説明

保存データ解析画面には数値表示、グラフ1表示、グラフ2表示があります。
表示モードはF3キーで切り替えることができます。

【数値表示】

【グラフ1表示】

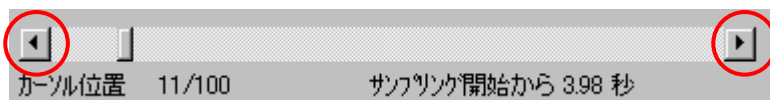
【グラフ2表示】

※ グラフ表示に対応していない解析データの場合、グラフ表示は無効となります。

• 項目カーソルを移動する

↑/↓キーで項目カーソルを移動でき、ウィンドウに表示できない項目がある場合はスクロールします。

• サンプリングカーソルを移動する

←キーで1サンプリング古いデータに、→キーで1サンプリング新しいデータに移動することができます。
また、画面上部のサンプリングスクロールバーの矢印ボタンでも移動することができます。

• グラフ2表示に対象項目を登録する

グラフ2表示では複数(最大8個まで)の項目を1つのグラフ上に重ねて表示することができます。
グラフ2表示に登録するにはF3キーでグラフ2表示に切替えて、項目名左にある➕をクリックしてください。
また、登録対象から外すには➖をクリックしてください。

• 表示対象データを絞り込む

選択表示機能を使って表示対象項目を絞り込むことができます。

各項目の左にあるチェックボックスをマウスクリックすることで選択/非選択を切替えることができます。
また、スペースバーでも項目カーソル上の項目の選択/非選択を切替えることができます。
F5キーを押すと選択状態になっている項目のみに絞り込まれ表示されます。
項目の絞込みは3階層まで行なうことができます。
また、元の表示に戻したい場合は、F6キーを押してください。

• グラフのレンジを変更する

グラフ表示中にF7キーを押すとレンジ設定モードになります。
レンジ設定モードでは、各項目のY軸レンジや時間軸レンジが変更できます。
各項目のY軸レンジを変更する場合は、最大値/最小値のエディットボックスに新しいレンジの値を入力してください。
(※初期のレンジ範囲外の値を設定することはできません)

時間軸レンジを変更する場合は、グラフ下の時間軸リストから新しい時間軸を選択してください。

各項目のY軸レンジや時間軸レンジを変更後、F11キーで設定したレンジを確定します。F12キーを押すと設定を元の値に戻します。

• 印刷する

F8キーを押すとパソコンのプリンタから印刷を実行することができます。
また、印刷前にファイルメニューの印刷プレビューで印刷範囲などを確認することができます。
数値/グラフ1表示で印刷対象幅が大きすぎて紙からはみ出す場合は、画面上部のカラム幅を調整してください。

• 画面データをキャプチャ(ハードコピー)する

F9キーを押すかCtrl+Cで画面のデータをキャプチャしクリップボードにコピーすることができます。クリップボードにコピーされた画像データはWordやExcelに貼り付けることができます。

• グラフのライン色を変更する

グラフ表示でツールバー をクリックすると項目カーソル上のグラフライン色を変更することができます。

• グラフのライン幅を変更する

グラフ表示でツールバー をクリックすると項目カーソル上のグラフライン幅を変更することができます。

• 2点間の時間を求める

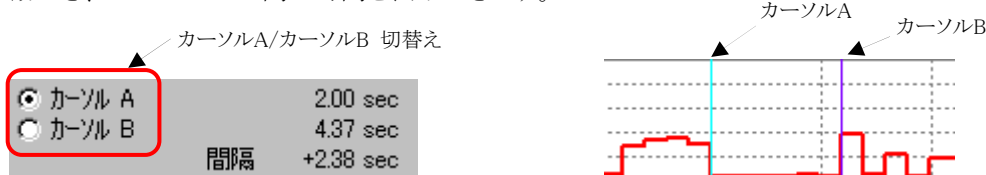
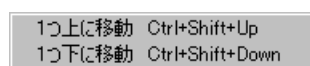
F4キーを押すと2点カーソルモードになります。2点カーソルモードでは、カーソルAとカーソルBの2つのカーソルが移動でき、2つのカーソル間の時間を表示できます。

カーソルA
カーソルB

もう一度F4を押すと1点カーソルモード(通常のカーソルモード)に戻ります。

• 表示順序を変更する

Ctrl+Shift+↑またはCtrl+Shift+↓で項目カーソル上の項目順序を移動できます。
マウスを右クリックして表示されるメニューでも項目順序を移動できます。

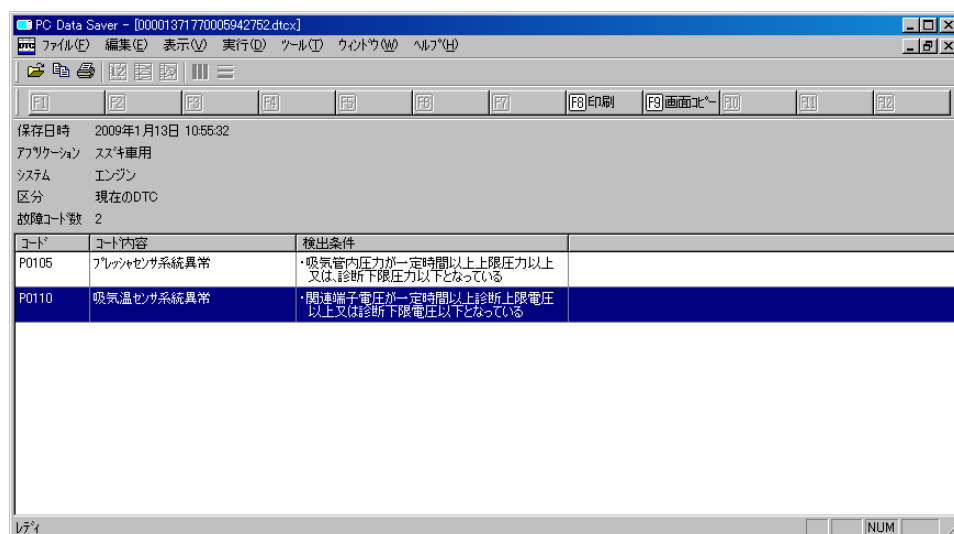
1つ上に移動 Ctrl+Shift+Up
1つ下に移動 Ctrl+Shift+Down

• CSVファイル形式で保存する

ファイルメニューのCSV形式で保存を実行すると現在のデータをCSVファイル形式で保存することができます。
また、2点カーソルモードの場合は2点間のサンプリングデータに絞り込んで保存できます。

• 2つ以上のデータリスト解析データを比較する

F10を押すと比較対象ファイル選択画面が表示され、選択されたデータリスト解析データと現在のデータリスト解析データを比較表示するために、保存データ比較画面を表示します。保存データ比較画面では複数のデータリスト解析データを1つのウィンドウ上に重ねて表示してデータ違いを比較することができます。

※ 異なる車両メーカー用アプリケーション(例：日産用とトヨタ用)のデータリスト解析データを比較することはできません。また、同じ車両メーカーの場合でも車種、年式が異なる場合比較できない場合があります。
※ 異なるシステム(例：エンジンとトランスミッション)のデータリスト解析データを比較することはできません。
※ 同じファイル名のデータリスト解析データを比較することはできません。

■ 故障コードの保存データ解析画面の説明

● 項目カーソルを移動する

↑/↓キーで項目カーソルを移動でき、ウィンドウに表示できない項目がある場合はスクロールします。

● 印刷する

F8キーを押すとパソコンのプリンタから印刷を実行することができます。
また、印刷前にファイルメニューの印刷プレビューで印刷範囲などを確認することができます。
印刷対象幅が大きすぎて紙からはみ出す場合は、画面上部のカラム幅を調整してください。

● 画面データをキャプチャ(ハードコピー)する

F9キーを押すかCtrl+Cで画面のデータをキャプチャしクリップボードにコピーすることができます。クリップボードにコピーされた画像データはWordやExcelに貼り付けることができます。

● CSVファイル形式で保存する

ファイルメニューのCSV形式で保存を実行すると現在のデータをCSVファイル形式で保存することができます。

■ フリーズフレームの保存データ解析画面の説明

● **項目カーソルを移動する**

↑/↓キーで項目カーソルを移動でき、ウィンドウに表示できない項目がある場合はスクロールします。

● **表示対象データを絞り込む**

選択表示機能を使って表示対象項目を絞り込むことができます。

各項目の左にあるチェックボックスをマウスクリックすることで選択/非選択を切替えることができます。
また、スペースバーでも項目カーソル上の項目の選択/非選択を切替えることができます。
F5キーを押すと選択状態になっている項目のみに絞り込まれ表示されます。
項目の絞込みは3階層まで行なうことができます。
また、元の表示に戻したい場合は、F6キーを押してください。

● **印刷する**

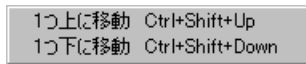
F8キーを押すとパソコンのプリンタから印刷を実行することができます。
また、印刷前にファイルメニューの印刷プレビューで印刷範囲などを確認することができます。
印刷対象幅が大きすぎて紙からはみ出す場合は、画面上部のカラム幅を調整してください。

● **画面データをキャプチャ(ハードコピー)する**

F9キーを押すかCtrl+Cで画面のデータをキャプチャしクリップボードにコピーすることができます。クリップボードにコピーされた画像データはWordやExcelに貼り付けることができます。

• 表示順序を変更する

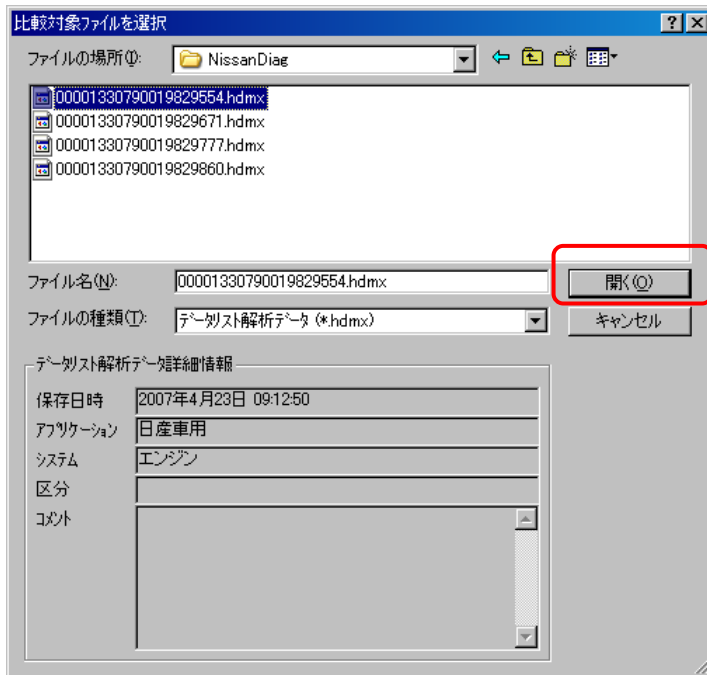
Ctrl+Shift+↑またはCtrl+Shift+↓で項目カーソル上の項目順序を移動できます。
マウスを右クリックして表示されるメニューでも項目順序を移動できます。

1つ上に移動　Ctrl+Shift+Up
1つ下に移動　Ctrl+Shift+Down

• CSVファイル形式で保存する

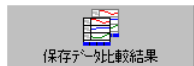
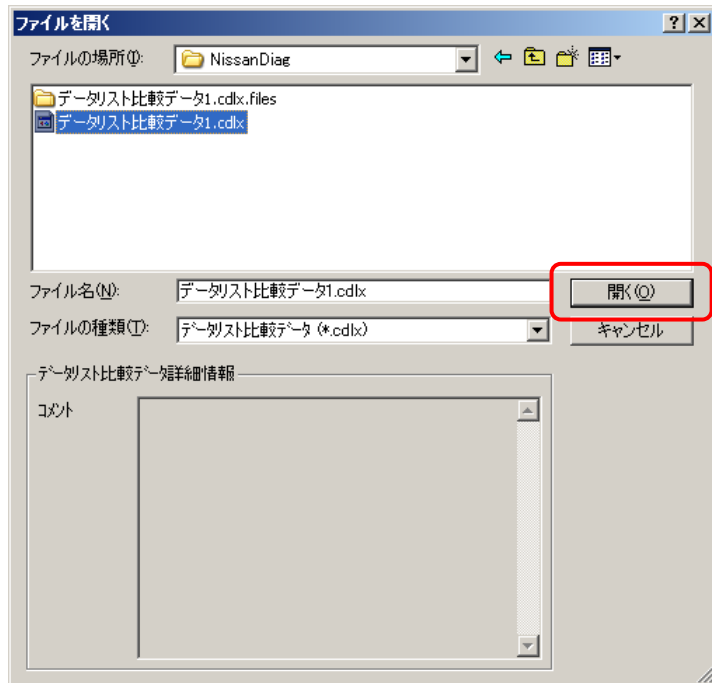
ファイルメニューのCSV形式で保存を実行すると現在のデータをCSVファイル形式で保存することができます。

複数のデータリスト解析データを比較する

■ 新しい比較の作成方法

1. 基準となるデータリスト解析データをオープンする。
2. 保存データ解析画面でF10キーを押し、表示された比較対象ファイル選択画面を表示する。

3. 比較対象となるデータリスト解析データを選択し、開くボタンをクリックする。
   ※ 異なる車両メーカー用アプリケーション(例:日産用とトヨタ用)のデータリスト解析データを比較することはできません。また、同じ車両メーカーの場合でも車種、年式が異なる場合比較できない場合があります。
   ※ 異なるシステム(例:エンジンとトランスミッション)のデータリスト解析データを比較することはできません。
   ※ 同じファイル名のデータリスト解析データを比較することはできません。
4. 保存データ比較画面が表示されます。

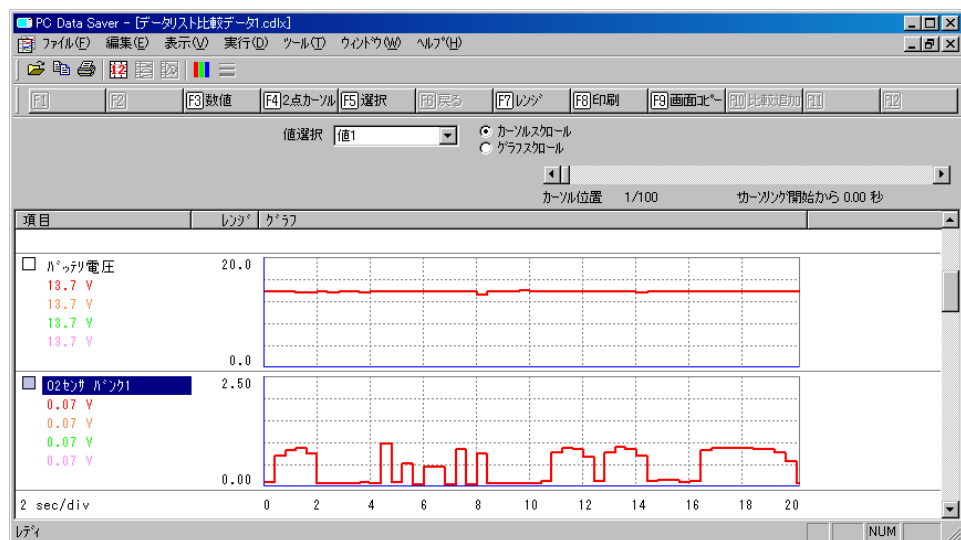
■ 以前に保存した比較のオープン方法

1. PCデータセーバーの左側にある「保存データ比較結果」を実行する。

2. 以前に保存したデータリスト比較データ(拡張子は*.cdlx)を選択し、開くボタンをクリックする。

3. 保存データ比較画面が表示されます。

■ 保存データ比較画面の説明

保存データ比較画面には数値表示、グラフ1表示があります。
表示モードはF3キーで切り替えることができます。

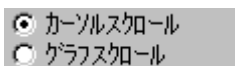
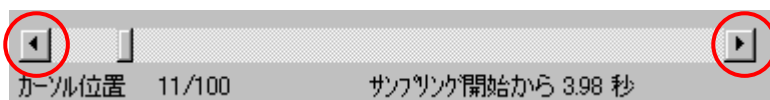
【数値表示】

【グラフ1表示】

• 項目カーソルを移動する

↑/↓キーで項目カーソルを移動でき、ウィンドウに表示できない項目がある場合はスクロールします。

• サンプリングカーソルを移動する

画面上部のスクロールモード選択でグラフスクロールモードを選択されている場合、←キーで1サンプリング古いデータに、→キーで1サンプリング新しいデータに移動することができます。

◉ ｶｰｿﾙｽｸﾛｰﾙ
○ ｸﾞﾗﾌｽｸﾛｰﾙ

また、画面上部のサンプリングスクロールバーの矢印ボタンでも移動することができます。

サンプリングカーソルは画面上部の値選択で選択されているデータ上で移動できます。

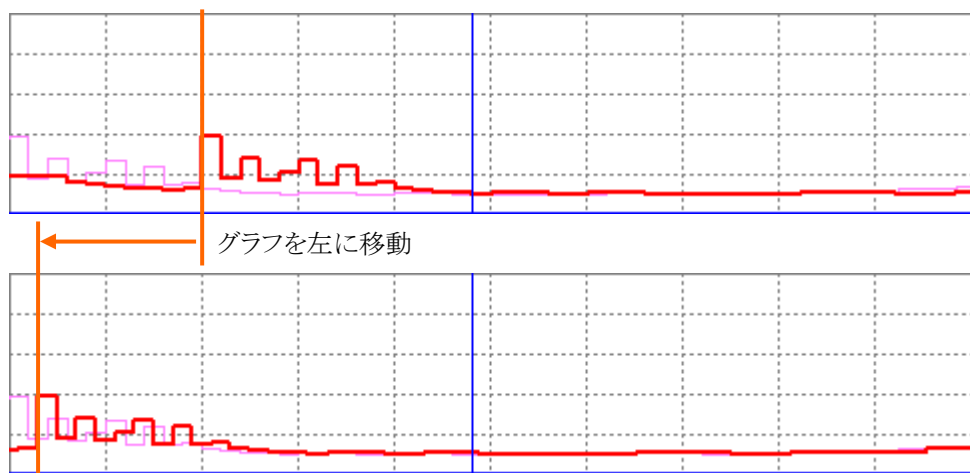
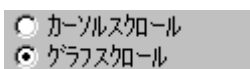
• グラフを水平方向に移動する

画面上部のスクロールモード選択でグラフスクロールモードを選択すると値選択で選択されているグラフのみを←/→キーで水平方向に移動することができます。この操作により時間軸のずれた複数のグラフを同期表示させることができます。
ファイルメニューの上書き保存か名前を付けて保存を実行するとグラフスクロールした移動量を保存することができます。

○ ｶｰｿﾙｽｸﾛｰﾙ
◉ ｸﾞﾗﾌｽｸﾛｰﾙ

• 表示対象データを絞り込む

選択表示機能を使って表示対象項目を絞り込むことができます。

項目
☑ 水温ｾﾝｻ
☐ 車速ｾﾝｻ
☑ ﾊﾞｯﾃﾘ電圧
☐ O2ｾﾝｻ ﾊﾞﾝｸ1

☐・・・非選択状態　☑・・・選択状態

各項目の左にあるチェックボックスをマウスクリックすることで選択/非選択を切替えることができます。
また、スペースバーでも項目カーソル上の項目の選択/非選択を切替えることができます。
F5キーを押すと選択状態になっている項目のみに絞り込まれ表示されます。
項目の絞込みは3階層まで行なうことができます。
また、元の表示に戻したい場合は、F6キーを押してください。

• グラフのレンジを変更する

グラフ表示中にF7キーを押すとレンジ設定モードになります。
レンジ設定モードでは、各項目のY軸レンジや時間軸レンジが変更できます。
各項目のY軸レンジを変更する場合は、最大値/最小値のエディットボックスに新しいレンジの値を入力してください。
(※初期のレンジ範囲外の値を設定することはできません)

時間軸レンジを変更する場合は、グラフ下の時間軸リストから新しい時間軸を選択してください。

各項目のY軸レンジや時間軸レンジを変更後、F11キーで設定したレンジを確定します。F12キーを押すと設定を元の値に戻します。

• 印刷する

F8キーを押すとパソコンのプリンタから印刷を実行することができます。
また、印刷前にファイルメニューの印刷プレビューで印刷範囲などを確認することができます。
数値/グラフ1表示で印刷対象幅が大きすぎて紙からはみ出す場合は、画面上部のカラム幅を調整してください。

• 画面データをキャプチャ(ハードコピー)する

F9キーを押すかCtrl+Cで画面のデータをキャプチャしクリップボードにコピーすることができます。クリップボードにコピーされた画像データはWordやExcelに貼り付けることができます。

• グラフのライン色を変更する

グラフ表示でツールバー をクリックすると画面上部の値選択で選択されているデータのグラフライン色を変更することができます。

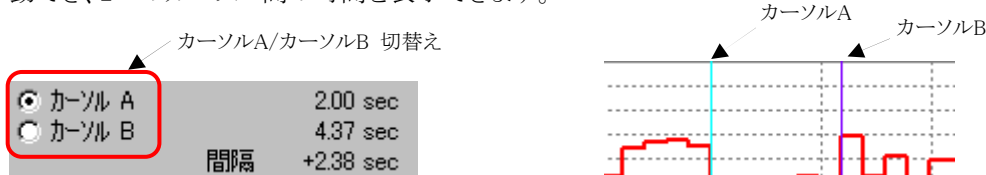
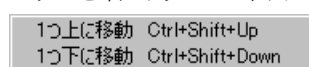
• 2点間の時間を求める

F4キーを押すと2点カーソルモードになります。2点カーソルモードでは、カーソルAとカーソルBの2つのカーソルが移動でき、2つのカーソル間の時間を表示できます。

もう一度F4を押すと1点カーソルモード(通常のカーソルモード)に戻ります。

• 表示順序を変更する

Ctrl+Shift+↑またはCtrl+Shift+↓で項目カーソル上の項目順序を移動できます。
マウスを右クリックして表示されるメニューでも項目順序を移動できます。

1つ上に移動　Ctrl+Shift+Up
1つ下に移動　Ctrl+Shift+Down

• CSVファイル形式で保存する

ファイルメニューのCSV形式で保存を実行すると現在サンプリングカーソルがある時点のデータをCSVファイル形式で保存することができます。

- **比較対象を追加する**

F10を押すと比較対象ファイル選択画面が表示され、選択されたデータリスト解析データを比較対象に追加することができます。最大4データまで比較することができます。

※ 異なる車両メーカー用アプリケーション(例：日産用とトヨタ用)のデータリスト解析データを比較することはできません。また、同じ車両メーカーの場合でも車種、年式が異なる場合比較できない場合があります。

※ 異なるシステム(例：エンジンとトランスミッション)のデータリスト解析データを比較することはできません。

※ 同じファイル名のデータリスト解析データを比較することはできません。

HDM-3000で保存した診断保存データをパソコンにバックアップする

■ 操作手順

1. HDM-3000診断アプリケーションの「現在のデータ表示/保存」機能を使用して車両データを保存する。
2. HDM-3000とパソコンをUSBケーブルで接続する。
3. パソコンでPCデータセーバーを起動する。
4. HDM-3000診断アプリケーションの「保存データを再表示する」を実行する。
5. 保存データの一覧で「F3 バックアップ」を実行する。

データモニタ項目

No	システム	ファイル作成日時	区分
1	エンジン	2008/10/24 09:45:19	
2	エンジン	2008/10/17 09:38:25	
3	エンジン	2008/10/16 08:47:06	
4	エンジン	2008/10/16 08:45:04	
5	エンジン	2008/10/15 18:22:45	
6	エンジン	2008/10/15 18:20:07	
7	エンジン	2008/10/15 18:19:31	

F1 ﾃﾞｰﾀ解析　F2 削除　F3 ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ　F4 ﾘｽﾄｱ　2008/11/10 09:24:58

6. バックアップ対象選択画面で、選択したい項目にカーソルを移動しYESキーで実行する。

※Sキーで選択されたデータがない場合は、選択項目に「選択されたデータ」は表示されません。
※ 保存データ転送中に下記のようなことは行わないでください。データが破損する場合があります。
・PCデータセーバーを終了する、・USBケーブルを抜く、・HDM-3000の電源をOFFする、・HDM-3000のCFカードを抜く
※ 以前と同じデータをバックアップした場合、パソコン側にある以前のデータは上書きされます。

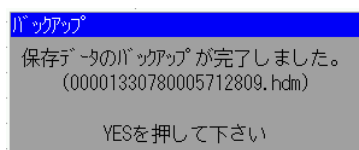
7. 選択された保存データがパソコンにバックアップされます。
パソコンでの保存先は以下となります。

〈マイドキュメント〉¥DiagMonitor¥PC Data Saver¥BackupBox¥SaveData¥〈シリアル番号〉¥〈アプリケーション名〉

※ 〈マイドキュメント〉　「マイ ドキュメント」フォルダ ／ 「ドキュメント」フォルダ(Vista/7の場合)
〈シリアル番号〉　接続したHDM-3000のシリアル番号で
HDM-3000の背面のステッカーに記載されています。
〈アプリケーション名〉　転送したHDM-3000診断アプリケーションにより異なります。

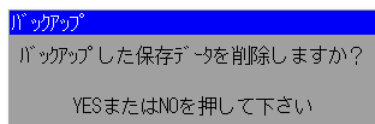
日産車用	NissanDiag	トヨタ車用	ToyotaDiag
ホンダ車用	HondaDiag	マツダ車用	MazdaDiag
スズキ車用	SuzukiDiag	ダイハツ車用	DaihatsuDiag
スバル車用	SubaruDiag	三菱車用	MitsubishiDiag
いすゞ車用	IsuzuDiag	三菱ふそう車用	MitsubishiFuso
日野車用	HinoDiag	グローバルOBD2	GlobalOBD
排気ガス測定用	GasMonitor	計測機能用	Measure

ファイル名は保存データ転送終了後にHDM-3000の画面に表示されます。
※ 複数のデータを転送した場合は、ファイル名は表示されません。

ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ
保存ﾃﾞｰﾀのﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟが完了しました。
(000013307800005712809.hdm)
YESを押して下さい

パソコンでの保存ファイルの拡張子は以下となります。

解析データ種類	拡張子
データリスト保存データ	*.hdm
故障コード保存データ	*.dtc
フリーズフレーム保存データ	*.ffd

8. バックアップした保存データをHDM-3000から削除する場合は、ファイル名表示メッセージの次に表示される削除確認画面でYESキーを押してください。NOキーを押すと保存データは削除されません。

ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ
ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟした保存ﾃﾞｰﾀを削除しますか？
YESまたはNOを押して下さい

バックアップした診断保存データをHDM-3000に戻す

バックアップした診断保存データをHDM-3000に戻すため、パソコン側で準備作業を行ない、HDM-3000側で実行作業を行ないます。

パソコン側準備作業　・・・ バックアップされたファイルからHDM-3000に戻す保存データ(リストア対象データ)をリストボックスと呼ばれる場所にコピーまたは移動します。

HDM-3000側実行作業 ・・・ リストアボックスにあるリストア対象データをHDM-3000に移動します。

■ パソコン側での準備作業手順

1. PCデータセーバーの左側にある「保存データリストア」を実行する。

2. リストアダイアログが起動します。

3. 「シリアル番号リスト」から保存データを戻す対象となるHDM-3000のシリアル番号を選択する。
   ※「異なるダイアグモニタへのリストアを行う。」チェックボックスにチェックすると、移動先のHDM-3000のシリアル番号を選択または入力することができます。
   ※ バックアップデータをバックアップしたHDM-3000とは異なるHDM-3000へ移動する場合、HDM-3000にインストールされているアプリケーションのバージョンの違いにより正しく再表示できない場合があります。
4. 「アプリケーションリスト」から対象となるアプリケーション(保存データをバックアップしたアプリケーション)を選択する。
5. 「バックアップされたデータのリスト」に以前にバックアップした保存データが表示されます。
6. リストアしたい保存データを「バックアップされたデータのリスト」から選択し「追加>>」または「移動>>」ボタンをクリックする。
   ※ 追加>>　バックアップされた保存データはそのまま残して「リストア対象データのリスト」に追加します。
   (リストア実行後もパソコン側に対象保存データは残ります)
   移動>>　バックアップされたデータは削除して「リストア対象データのリスト」に追加します。
   (リストア実行後、対象保存データはパソコンから削除されます)
   <<削除　「リストア対象データのリスト」に追加した保存データを「バックアップされたデータのリスト」に戻します。
7. 「OK」ボタンをクリックする。
   ※ この時点で「リストア対象データのリスト」に追加された保存データはバックアップフォルダからリストアボックスと呼ばれるフォルダにコピーされます。なお、「バックアップされたデータのリスト」から「移動>>」によって「リストア対象データのリスト」に追加された保存データはこの時点で「バックアップされたデータのリスト」から削除されます。

■ HDM-3000側での実行作業手順

1. HDM-3000とパソコンをUSBケーブルで接続する。
2. パソコンでPCデータセーバーを起動する。
3. HDM-3000診断アプリケーションの「保存データを再表示する」を実行する。
4. 保存データの一覧で「F4 リストア」を実行する。

データモニタ項目

No	システム	ファイル作成日時	区分
1	エンジン	2008/10/24 09:45:19	
2	エンジン	2008/10/17 09:38:25	
3	エンジン	2008/10/16 08:47:06	
4	エンジン	2008/10/16 08:45:04	
5	エンジン	2008/10/15 18:22:45	
6	エンジン	2008/10/15 18:20:07	
7	エンジン	2008/10/15 18:19:31	

F1 データ解析　F2 削除　F3 バックアップ　F4 リストア　2008/11/10 09:24:58

※ 保存データ転送中に下記のようなことは行わないでください。データが破損する場合があります。
　・PCデータセーバーを終了する、・USBケーブルを抜く、・HDM-3000の電源をOFFする、・HDM-3000のCFカードを抜く
※ 既にHDM-3000にある保存データと同じデータをリストアした場合、HDM-3000側にある以前のデータは上書きされます。

5. リストアボックスに設定された保存データがHDM-3000に移動します。
6. すべてのリストア対象データの転送が終了すると下記の画面が表示されますのでHDM-3000のYESキーを押してください。

7. 保存データの一覧が更新されます。

HDM-3000で保存した画面保存データをパソコンにバックアップする

■ 操作手順

1. HDM-3000診断アプリケーションの「画面保存」機能を使用して画面保存データを保存する。
2. HDM-3000とパソコンをUSBケーブルで接続する。
3. パソコンでPCデータセーバーを起動する。
4. HDM-3000診断アプリケーションの「画面保存データを再表示する」を実行する。
5. 画面保存データの一覧で「F3 バックアップ」を実行する。

No	システム	ファイル作成日時
1	エンジン	2008/11/10 16:47:03
2	ABS	2008/11/10 16:46:10
3	AT	2008/11/10 09:20:40
4	エンジン	2008/11/10 09:10:33
5	エンジン	2008/11/10 09:01:26
6	エンジン	2008/11/05 12:00:17

6. バックアップ対象選択画面で、選択したい項目にカーソルを移動しYESキーで実行する。

※ Sキーで選択されたデータがない場合は、選択項目に「選択されたデータ」は表示されません。

※ 画面保存データ転送中に下記のようなことは行わないでください。データが破損する場合があります。
　・PCデータセーバーを終了する、・USBケーブルを抜く、・HDM-3000の電源をOFFする、・HDM-3000のCFカードを抜く

※ 以前と同じデータをバックアップした場合、パソコン側にある以前のデータは上書きされます。

7.　選択された画面保存データがパソコンにバックアップされます。
パソコンでの保存先は以下となります。

〈マイドキュメント〉¥DiagMonitor¥PC Data Saver¥BackupBox¥CaptureBMP¥〈シリアル番号〉¥〈アプリケーション名〉

※ 〈マイドキュメント〉　「マイ ドキュメント」フォルダ ／ 「ドキュメント」フォルダ(Vista/7の場合)。

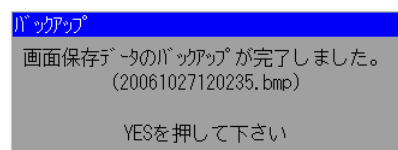
〈シリアル番号〉　接続したHDM-3000のシリアル番号で
HDM-3000の背面のステッカーに記載されています。

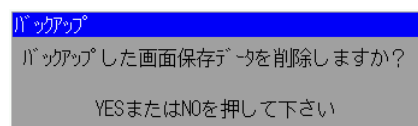
〈アプリケーション名〉　転送したHDM-3000診断アプリケーションにより異なります。

日産車用	NissanDiag	トヨタ車用	ToyotaDiag
ホンダ車用	HondaDiag	マツダ車用	MazdaDiag
スズキ車用	SuzukiDiag	ダイハツ車用	DaihatsuDiag
スバル車用	SubaruDiag	三菱車用	MitsubishiDiag
いすゞ車用	IsuzuDiag	三菱ふそう車用	MitsubishiFuso
日野車用	HinoDiag	グローバルOBD2	GlobalOBD
排気ガス測定用	GasMonitor	計測機能用	Measure

ファイル名は画面保存データ転送終了後にHDM-3000の画面に表示されます(拡張子は*.bmp)。

※ 複数のデータを転送した場合は、ファイル名は表示されません。

ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ
画面保存ﾃﾞｰﾀのﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟが完了しました。
(20061027120235.bmp)
YESを押して下さい

8.　バックアップした画面保存データをHDM-3000から削除する場合は、ファイル名表示メッセージの次に表示される削除確認画面でYESキーを押してください。NOキーを押すと画面保存データは削除されません。

ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ
ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟした画面保存ﾃﾞｰﾀを削除しますか?
YESまたはNOを押して下さい

バックアップした画面保存データをHDM-3000に戻す

バックアップした画面保存データをHDM-3000に戻すため、パソコン側で準備作業を行ない、HDM-3000側で実行作業を行ないます。

パソコン側準備作業　・・・ バックアップされたファイルからHDM-3000に戻す画面保存データ(リストア対象データ)をリストボックスと呼ばれる場所にコピーまたは移動します。

HDM-3000側実行作業・・・ リストアボックスにあるリストア対象データをHDM-3000に移動します。

■ パソコン側での準備作業手順

1. PCデータセーバーの左側にある「画面保存データリストア」を実行する。

2. リストアダイアログが起動します。

3. 「シリアル番号リスト」から画面保存データを戻す対象となるHDM-3000のシリアル番号を選択する。
   ※「異なるダイアグモニタへのリストアを行う。」チェックボックスにチェックすると、移動先のHDM-3000のシリアル番号を選択または入力することができます。
   ※ バックアップデータをバックアップしたHDM-3000とは異なるHDM-3000へ移動する場合、HDM-3000にインストールされているアプリケーションのバージョンの違いにより正しく再表示できない場合があります。
4. 「アプリケーションリスト」から対象となるアプリケーション(画面保存データをバックアップしたアプリケーション)を選択する。
5. 「バックアップされたデータのリスト」に以前にバックアップした画面保存データが表示されます。
6. リストアしたい画面保存データを「バックアップされたデータのリスト」から選択し「追加>>」または「移動>>」ボタンをクリックする。
   ※ 追加>>　バックアップされた画面保存データはそのまま残して「リストア対象データのリスト」に追加します。
   (リストア実行後もパソコン側に対象画面保存データは残ります)
   移動>>　バックアップされた画面データは削除して「リストア対象データのリスト」に追加します。
   (リストア実行後、対象画面保存データはパソコンから削除されます)
   <<削除　「リストア対象データのリスト」に追加した画面保存データを「バックアップされたデータのリスト」に戻します。
7. 「OK」ボタンをクリックする。
   ※ この時点で「リストア対象データのリスト」に追加された画面保存データはバックアップフォルダからリストアボックスと呼ばれるフォルダにコピーされます。なお、「バックアップされたデータのリスト」から「移動>>」によって「リストア対象データのリスト」に追加された画面保存データはこの時点で「バックアップされたデータのリスト」から削除されます。

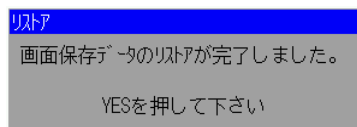
■ HDM-3000側での実行作業手順

1. HDM-3000とパソコンをUSBケーブルで接続する。
2. パソコンでPCデータセーバーを起動する。
3. HDM-3000診断アプリケーションの「画面保存データを再表示する」を実行する。
4. 画面保存データの一覧で「F4 リストア」を実行する。

No	システム	ファイル作成日時
1	エンジン	2008/11/10 16:47:03
2	ABS	2008/11/10 16:46:10
3	AT	2008/11/10 09:20:40
4	エンジン	2008/11/10 09:10:33
5	エンジン	2008/11/10 09:01:26
6	エンジン	2008/11/05 12:00:17

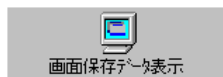
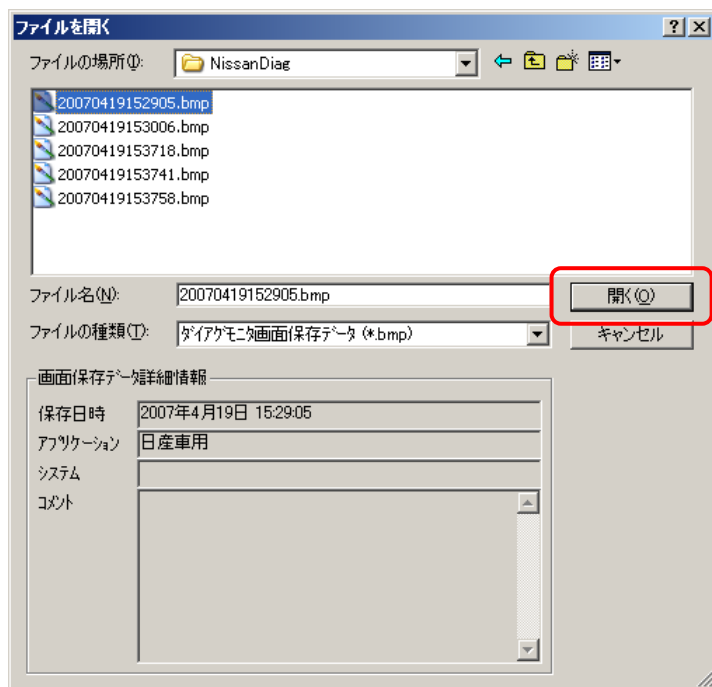
F1 | F2 削除 | F3 ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ | F4 ﾘｽﾄｱ | 2008/11/10 17:34:32

※ 画面保存データ転送中に下記のようなことは行わないでください。データが破損する場合があります。
・PCデータセーバーを終了する、・USBケーブルを抜く、・HDM-3000の電源をOFFする、・HDM-3000のCFカードを抜く
※ 既にHDM-3000にある画面保存データと同じデータをリストアした場合、HDM-3000側にある以前のデータは上書きされます。

5. リストアボックスに設定された画面保存データがHDM-3000に移動します。
6. すべてのリストア対象データの転送が終了すると下記の画面が表示されますのでHDM-3000のYESキーを押してください。

7. 画面保存データの一覧が更新されます。

バックアップした画面保存データをパソコン上で表示する

■ 画面保存データオープンの方法

1. PCデータセーバーの左側にある「画面保存データ表示」を実行する。

2. 表示したい画面保存データ(拡張子は*.bmp)を選択し、開くボタンをクリックする。

※バックアップされた時点で画面保存データは以下のフォルダに保存されます。

〈マイドキュメント〉¥DiagMonitor¥PC Data Saver¥BackupBox¥CaptureBMP¥〈シリアル番号〉¥〈アプリケーション名〉

※ 〈マイドキュメント〉　「マイ ドキュメント」フォルダ / 「ドキュメント」フォルダ(Vista/7の場合)
〈シリアル番号〉　接続したHDM-3000のシリアル番号で
HDM-3000の背面のステッカーに記載されています。
〈アプリケーション名〉　転送したHDM-3000診断アプリケーションにより異なります。

日産車用	NissanDiag	トヨタ車用	ToyotaDiag
ホンダ車用	HondaDiag	マツダ車用	MazdaDiag
スズキ車用	SuzukiDiag	ダイハツ車用	DaihatsuDiag
スバル車用	SubaruDiag	三菱車用	MitsubishiDiag
いすゞ車用	IsuzuDiag	三菱ふそう車用	MitsubishiFuso
日野車用	HinoDiag	グローバルOBD2	GlobalOBD
排気ガス測定用	GasMonitor	計測機能用	Measure

9. 画面保存データ表示画面が表示されます。

■ 画面保存データ表示画面の説明

• 印刷する

F8キーを押すとパソコンのプリンタから印刷を実行することができます。
また、印刷前にファイルメニューの印刷プレビューで印刷範囲などを確認することができます。

• 画面データをキャプチャ(ハードコピー)する

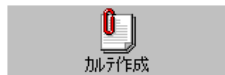
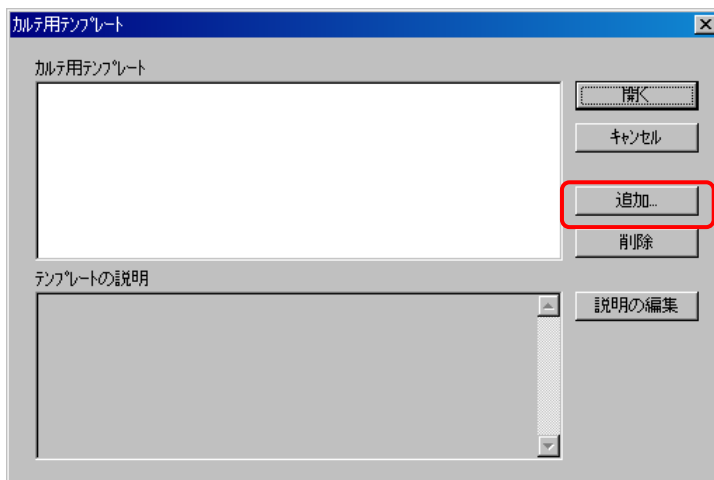
Ctrl+Cで画面のデータをキャプチャしクリップボードにコピーすることができます。クリップボードにコピーされた画像データはWordやExcelに貼り付けることができます。

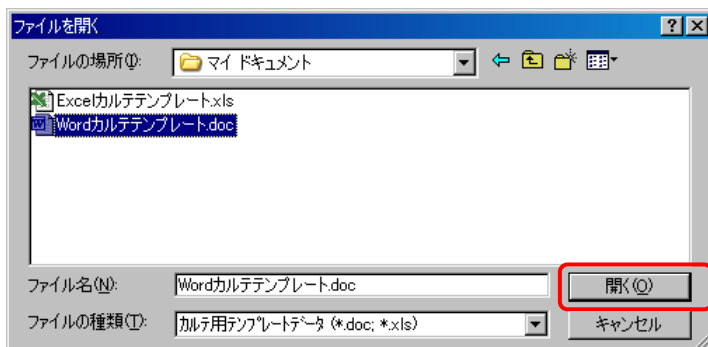
診断カルテを作成する

■ 診断カルテテンプレート作成

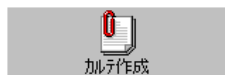
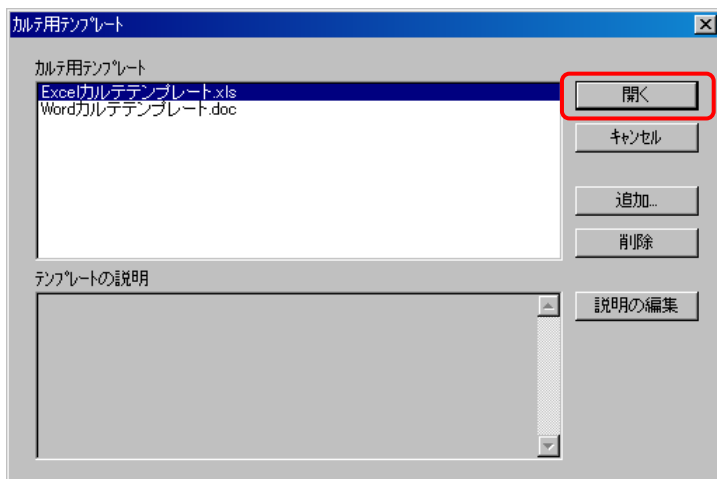
Microsoft ExcelやMicrosoft Wordを使用して診断カルテのベースとなるテンプレートファイルを作成してください。

■ 診断カルテテンプレートの登録

1. PCデータセーバーの左側にある「カルテ作成」を実行する。

2. カルテダイアログが表示されます。

3. 「追加」ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログが表示されるので、テンプレートとなるファイルを選択し、開くボタンをクリックする。

4. 選択されたファイルが「カルテ用テンプレートリスト」に追加されます。
   ※ この時点で選択されたファイルはテンプレート格納フォルダにコピーされます。
5. 「説明の編集」ボタンをクリックすると対象テンプレートの説明を入力することができます。
   また、「削除」ボタンをクリックすると対象テンプレートを一覧から削除します。ただし、テンプレート格納フォルダにコピーされたファイルはそのまま残ります。

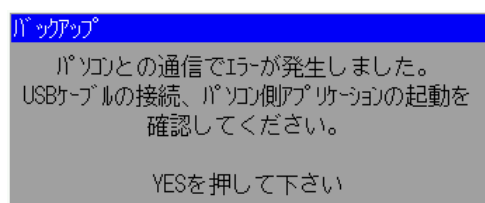
■ 診断カルテの作成

1. PCデータセーバーの左側にある「カルテ作成」を実行する。

2. カルテダイアログが表示されます。

3. 「カルテ用テンプレートリスト」から使用したいテンプレートファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックする。
4. 選択されたテンプレートファイルがMicrosoft ExcelやMicrosoft Wordで開かれます。
5. 開かれたテンプレートに必要事項を入力したり、PCデータセーバーのキャプチャを貼り付けたりしてカルテを作成する。

※ テンプレートファイルは読み取り専用で開かれるので編集後、「名前を付けて保存」により保存してください。

トラブルシューティング

■ HDM-3000から解析データ転送、バックアップ、リストアを実行しようとするとエラーとなる

［エラー画面の例］

［確認事項］

① パソコンとHDM-3000がUSBケーブルで接続されていること確認してください。

② パソコン、HDM-3000の電源がONになっていることを確認にしてください。

③ パソコンにHDM-3000用USBドライバがインストールされていることを確認してください。

④ パソコンでPCデータセーバーが起動されていることを確認してください。
PCデータセーバーが起動し、HDM-3000を認識できているかどうかは、パソコンのディスプレイの右下のWindowsシステムトレイのアイコンで分かります。

 HDM-3000を認識しています。

 HDM-3000を認識できていません。

⑤ バックアップの場合、パソコンのハードディスクに空き容量があることを確認してください。
空き容量がない場合はパソコン側の不要なデータを削除して容量を確保してください。

⑥ リストアの場合、HDM-3000のCFカードに空き容量があることを確認してください。
空き容量がない場合は不要な診断保存データ、画面保存データをバックアップするか削除して容量を確保してください。

⑦ 上記を確認してもエラーとなる場合は、
・一度PCデータセーバーを閉じて再起動し
・HDM-3000の電源をOFFして再起動してください。

■ カルテテンプレートを開こうとするとエラーとなる

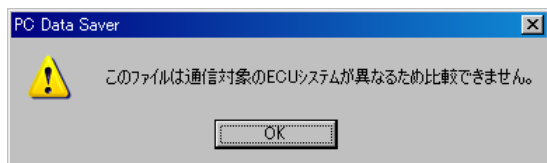
［エラー画面の例］

［確認事項］

① 拡張子が*.xlsの場合Microsoft Excel、拡張子が*.docの場合Microsoft Wordがご使用のパソコンにインストールされていることを確認してください。

② 拡張子に関連付けられているWindowsアプリケーションがあることを確認してください。エクスプローラで対象ファイルをダブルクリックしてWindowsアプリケーション起動できなければ関連付けされていません。
関連付けされていない場合は、対象のWindowsアプリケーションの取扱説明書に従って拡張子の関連付けを行なってください。

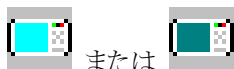
■ 保存データ比較対象を追加しようとするとエラーとなる

［エラー画面の例］

① 異なる車両メーカー用アプリケーション(例：日産用とトヨタ用)のデータリスト解析データを比較することはできません。また、同じ車両メーカーの場合でも車種、年式が異なる場合比較できない場合があります。
② 異なるシステム(例：エンジンとトランスミッション)のデータリスト解析データを比較することはできません。
③ 同じファイル名のデータリスト解析データを比較することはできません。

■ HDM-3000アプリケーションのインストール、アップデートに失敗する

PCデータセーバー起動中は、HDM-3000アプリケーションのインストールやアップデートを行なうことはできません。PCデータセーバーを終了し、パソコンのディスプレイの右下のWindowsシステムトレイに「PC Data Saver Monitor」のアイコンが表示されていないことを確認してから行なってください。

［PC Data Saver Monitorのアイコン］

 または

お問い合わせについて

この製品について不明な点がある場合や故障と思われる場合には、下記にお問い合わせください。

お問い合わせ先/販売元

株式会社 日立オートパーツ&サービス

本社	TEL.044-221-6472	〒210-0011	神奈川県川崎市川崎区富士見1-6-3
北海道支店	TEL.011-271-1521(代)	〒060-0031	札幌市中央区北一条東12-22-41
東北支店	TEL.022-284-2331(代)	〒983-0035	仙台市宮城野区日の出町3-3-13
東京支店	TEL.03-3527-6432	〒135-0062	東京都江東区東雲2-10-14
中部支店	TEL.052-703-2211(代)	〒465-0093	名古屋市名東区一社4-177
関西支店	TEL.06-6928-3281(代)	〒534-0014	大阪市都島区都島北通り2-9-21
中国支店	TEL.082-232-6331(代)	〒733-0012	広島市西区中広町3-20-5
四国支店	TEL.087-882-3155(代)	〒761-8031	高松市郷東町16-14
九州支店	TEL.092-431-7261(代)	〒812-0888	福岡県福岡市博多区 板付1-12-5

HDM-3000 PCデータセーバー Version 2

取扱説明書

2007年 5月 初版発行
2008年 7月 第二版発行
2009年 2月 第三版発行
2009年 4月 第四版発行
2009年 10月 第五版発行
2010年 7月 第六版発行

販売元 : 株式会社 日立オートパーツ&サービス

製造元 : 株式会社 日立カーエンジニアリング